

「藍染のふるさと「阿波藍」で、貴方だけの藍染特別体験のご紹介」

本藍染製品は、肌荒れを防ぎ、毒蛇や毒虫を寄せ付けないと言われています。

古くは、武士が戦場で野宿をする時などに効果を発揮し、燃えにくいため火消しの纏いや蒸気機関車の機関士の衣服として普及していました。

次の体験施設では、徳島県の薬（すくも）を使用し、自然界の材料のみで藍液を作る「天然灰汁発酵建て」によって、日本でも数少ないホンモノの本藍染製品を作っています。

○体験施設

・本藍染矢野工場

〒771-1253 板野郡藍住町矢上字江ノ口25-1

TEL：088-692-8584

駐車台数5台



・古庄染工場

〒770-0027 徳島市佐古七番町9-12

TEL：088-622-3028

駐車台数5台



○体験内容

・衣料（Tシャツ、ストール、ワンピース等）やテーブルクロスなど、貴方だけの藍染に仕上げたい品をお持ち下さい。

※染められるもの

綿、麻、絹、ウール等天然素材、レーヨン、キュプラ、テンセル等セルロース系繊維（ポリエステル、ラメ糸等は染まりません。）

○料金

・持ち込み生地の重さ1グラムにつき50円（絹は80円）として総重量の料金

例：夏物ワンピースで約10,000円～15,000円

○体験の流れ

・体験時間

約2時間～2日 ※宿泊を伴う体験を希望する方は、オプション体験と同様に（財）徳島県観光協会 振興課 088-624-5140までお問い合わせ下さい。

・準備物

藍染で仕上げたい品（エプロン、手袋は、体験施設で貸出しています。）

・作業手順

手順1 デザインの決定

型染め、ろうけつ染め、絞り染め等、デザインを決めます。

手順2 下準備

デザインに応じて下準備を行います。

手順3 染色開始

染師の指導を受けながら、藍染作業を始めます。
染め液に浸けた状態で約2分経過の後、染め液から出して約2分空気に晒して発色を促します。
※素材によって、染色時間が多少異なります。



手順4 手順3を数回繰り返します。

回数を重ねるごとに濃い藍色に近づきます。
褐色（かちいろ）※は、手順3を25回から30回繰り返します。

※褐色（かちいろ）

藍染の濃紺は褐色（かちいろ）と呼び、音読が勝色聞こえることから、日本古来より縁起の良い色として武士に愛用されました。

手順5 洗いと乾燥

染め終わった品は、灰汁等の不純物を洗い落とし、乾燥して完成します。
日程に余裕がない場合は、最後の行程を染師職人に依頼し、後日郵送にてお手元にお届けします。
送料は別途必要です。



○体験期間

- ・通年 ※1週間前までにお申込が必要です。

○オプション体験

藍染の原料となる徳島県の「菜（すくも）」は、古くより阿波藍として全国に名を馳せ、現在も国内生産量の8割～9割を占めています。

この貴重な菜造りの作業風景を見学したい方は、
(財)徳島県観光協会 振興課 電話088-624-5140までお問い合わせ下さい。



・作業内容と時期

藍粉成し（6月下旬～8月上旬）

乾燥した藍を庭に取り込み、1.5cmくらいになるよう藍を切断し、扇風機の風を利用して葉と茎に選別する作業。



すくもの製造（9月上旬～11月下旬）

床に一番藍葉を1m位の高さに積み上げて、適量の水をかけて十分ませ合わせながら、元の高さまで切り返す作業。